

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892800042		
法人名	株式会社あっぷる		
事業所名	あっぷるグループホーム播磨		
所在地	兵庫県加古郡播磨町野添401-3		
自己評価作成日	令和2年8月26日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和2年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平屋建てのため、東西のユニットへ自由に行き来できることで利用者様、職員の交流が取りやすくなっております。また、毎日の清掃で清潔感を保ち、明るく開放的なダイニングで誰もが参加できるレクリエーションを楽しんで頂き、毎日笑いの絶えない施設運営を行っております。施設内には平行棒を設置し、機能訓練にも力を入れています。外部からの侵入を防いだり、緊急時に即対応出来るように見守りシステムを採用し、利用者様のプライバシーを守りながら危険回避ができるシステム構築を行っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は理念の一つ、「利用者様へ笑顔・感謝・情熱をもって対応します」をテーマとしているが、4月からは、法人が作成した新型コロナウイルス対応マニュアルによる「感染症対策チェックリスト」の実践を優先している。3月1日から、来客がある施設内イベントや外出行事を中止し、中旬以降は入居者への面会も禁止した。入居者は、概ね施設内で過ごしているが、開錠している扉から玄関ホールや隣のユニットへと施設内を自由に移動できる。平行棒や上肢運動台でリハビリを行う方もいる。季節の七夕祭り、夏祭りは入居者と職員だけでゲームを楽しみ、特別料理を味わった。5月からは、タブレット端末で会議アプリを利用してリモートで入居者と面会できるように対応している。災害時には全職員が避難誘導できるよう年間4回の避難誘導訓練を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

あっぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所として独自の理念を作成しています。職員全員が、常に携帯し、共有できるようにしています。	毎朝、朝礼を行い、最初に事業所理念を読み上げ共有化している。今年度は初心に帰り「利用者様へ笑顔・感謝・情熱をもって対応します」をテーマにしている。新型コロナウイルス対応マニュアルによる感染症対策チェックリストの実践を優先している。	新型コロナウイルス対応マニュアルの完全な遂行による、ウイズ・コロナの時代における安定的なグループホームの運営の実現を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は地域交流を控えています。	3月1日以降、来客がある施設内イベントや外出行事を中止し、地域の方々との日常的な交流は中断している。6月に再開したが、8月以降再度中止して、それ以降は継続している。法人の感染症対策会議での議論を踏まえた指示を待っている状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	播磨町推進の「つどいカフェ」を定期的開催し、認知症や介護について地域の方と一緒に気軽に話が出来る機会を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、運営推進会議を開催し、町職員、地域包括支援センター職員や自治会長、老人会長、医療関係有識者、利用者、利用者家族にも参加していただき、率直な意見を頂きサービス向上に活かしている。	役場に開催要領等を確認しながら運営している。4月は開催を中止して文書による報告に代え、報告書を各メンバーに届けた。6月、8月は、通常の半数のメンバーで開催し、定例の近況報告と出席メンバーの意見交換等を行った。議事録は全メンバーに配布した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の受付窓口に、パンフレットを設置していただいたり、空室情報など知らせたり、地域包括支援センターとも同じように連携出来ている。	運営推進会議は役場の担当者に開催要領等を確認しながら運営している。「いきいき100歳体操」、「つどいカフェ」の事業所での開催は見合わせているが、役場、地域包括支援センター職員との協力関係は維持している。マスク、衛生用品等の提供を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中 玄関、東西ユニットや事務所は施錠せず、自由に行き来できるようにしている。身体拘束の研修も行っている。	昼間は玄関、各ユニット扉は開錠してあり、入居者は鍵をかけない暮らしをしている。各居室に見守りセンサーが設置され、危険防止に機能している。3か月毎に法人が開催する身体拘束廃止委員会からの指示等を待って、事業所での研修を行っている。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待の芽チェックリストを職員が記入、回収し集計分析による課題の把握を行い虐待防止につなげている。また、年間職員定例研修では高齢者虐待の種類や発見時の措置方法を学ぶ機会を設けている。	去年9月から、15項目からなる「虐待の芽チェックリスト」により、毎月職員自らがチェックを行い、これを回収、集約してミーティングに提出して意見交換する。安全衛生委員会が作成編集する虐待防止マニュアル及び資料等を使って、毎年研修を行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間職員定例研修に落とし込み、学ぶ機会を設けています。必要時には活用できるように支援していく方向です。	被保佐人の入居者がおり、保佐人の姪の方から実際の活動等につき、教えてもらったところを職員に伝達することがある。年度研修計画で権利擁護に関する制度は毎年学んでいる。玄関には、誰でも見られるよう成年後見制度のパンフレットを置いている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、契約書をわかりやすく説明し、料金や報酬加算、解約についてもわかりやすく説明し、納得をされた上で署名、捺印を頂いている。	重要事項説明書、契約書等を使って管理者が時間をかけて説明する。利用料金、緊急時の対応方法は特に丁寧に説明する。入居者、家族の意向に関する事項は書面に残す。家族の置かれた状況を理解し、思いを共にして課題等を共有できるよう意見をすり合わせる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の取り組みとして利用者様アンケートを実施、出された家族の意見や要望について職員で話し合い検討し、サービス向上に努めている。	法人のサービス向上委員会が毎年「家族アンケート」を行っており、集計結果を基にミーティングを行いサービス向上に努めている。今年の留意点は入居者、職員の「身だしなみ、服装」だった。毎月家族との直接面談の機会を持っていたが、現在は途絶えている。	利用中のミーティング・アプリの操作方法を家族等に説明して、オンラインで入居者と家族の面会、職員と家族との面談、会議、更には入居者と馴染みの方々との面会等にと高度に活用されることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員定例ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、現場の声を反映させている。	朝礼、ユニット会議、ミーティングで職員が意見を述べている。各ユニットの「気づきノート」には、職員は誰でも、何でも記入し共有できる。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、決め事を作る前には十分に職員の話聞くよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに応じ、常勤・非常勤が働いています。得意分野を見極め、各仕事の担当を決めています。ユニットの勤務変更も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	R2年度は1名介護福祉士資格を取得しました。社内研修や二市二町グループホーム協会等で外部研修の情報交換を行い、介護技術向上の研修等の研修を受けています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東播磨の二市二町グループホーム協会の定期的な勉強会や講演会に積極的に参加しています。職員も参加し、交流の機会を得ています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より利用者本人の話を傾聴し要望や不安など理解するように努めている。入居後は個別で担当職員を決め、本人の安心に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より困りごと、不安なこと、要望など聴取し、ご家族の思いに添えるような関係が築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との関係性を見極め入所後慣れるまでは面会しないようにして頂く等の対応を取ることもある。相談内容によってはデイサービス・有料老人ホーム等他施設の利用をすすめさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をせず、「出来る事はしていただく」スタイルと一緒に家事を行い助け合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症対策として面会制限を行っているため、Web面会を導入することで本人と家族の絆を大切にしています。また、通院時ご家族と一緒に職員が同行させていただくこともあります。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っておられた病院、歯科医院、美容院等に入所してからも通われている方がいます。	法人における新型コロナウイルス対応マニュアルの実践により、馴染みの方や知り合いの方々との交流は途絶えている。近所のスーパーに買い物に出掛けてもコミュニケーションの場がなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室ではなくデイルームで過ごして頂くことでコミュニケーションをとれる環境づくりに努めています。別ユニットに行き、会話を楽しまれたりされる方もおられます。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解を得て、現在の入院先、または入所先に訪問させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムの把握が出来るように、日常のかかわりで表情や行動を見ながら、思いを理解出来るように努力している。	入居者のその日の体調の変化や様子を「申し送りノート」に記入して、全職員が共有できるよう工夫している。意思表示が困難な方の場合は、家族や関係者から聞きとり、情報を得るようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までと変わらない暮らしが出来るように、基本情報に記入をお願いしている。長期間の別居などにより生活歴や習慣が家族から聞き取り出来ない場合は、生活しながら本人への聞き取りで情報収集することもある。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	わかること、出来ることなど現状把握に努めています。まず、好きなこと、出来ることに注目するようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当学会議や普段の近況報告時に介助方法など、家族様の疑問にお答えし、一番良い介助方法を家族様と職員が一緒に考え、計画を作成している。	介護計画の見直しは原則として6カ月毎に行っている。職員は2名の入居者を担当し、計画作成担当者や関係者と話し合い、目標の見直しに反映させている。入居者の思いと家族の意向を主体にした介護計画になるよう意見交換を行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、排泄及び日々の暮らしの様子など記録している。気づきノートを活用して、情報の共有をしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方もおられ、通院など必要な支援は柔軟に対応している。薬の変更、量なども居宅療養管理指導で薬剤師に相談したこともある。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に出かけたり、出前の利用を行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の意向を伺い、かかりつけ医の受診をしていただいている。家族様の希望があれば、提携している協力医への受診を行っている。訪問看護師が主治医と直接連携をとることもある。	かかりつけ医の受診は、原則的には家族が対応するが、家族の付き添い等が困難な場合は職員が支援する。必要に応じて週1回来所する訪問看護師と連携をとっている。歯科医と歯科衛生士が毎月訪れて希望する入居者の診療又は口腔ケアを行っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合には、まず訪問看護師へ相談し、受診が必要な際は救急搬送の有無も確認、緊急性がなければかかりつけ医や協力医の連携室に電話相談しスムーズな受診が出来るようにしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供している。入院中は、家族や地域連携室と情報交換し、経過や退院時の対応など、早期退院に向けて相談している。	入院時には、本人の健康状態や支援内容等の情報を速やかに医療機関に提供する。入院中は見舞いに行き関係者と話し合っ情報を得る。病院のカンファレンスに同席して退院後の対応について家族の意向等を確認して、再入居後の介護計画を立てている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合や終末期について、入居契約時に家族と話し合い、意向を確認しながら、終末期が近づいたタイミングで再度事業所としてできる範囲のことを伝えている。	入居契約の際に、重度化した場合や看取りの方針について説明している。入居者の状態の変化によって主治医が終末期と判断した場合には、家族や訪問看護師、職員とも話し合い、看取りの計画を共有し、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	危機管理や事故発生時について、職員定例研修会で学ぶ機会を作っています。基本的な医学知識として正しい対応の仕方を勉強している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度、避難訓練を行っている。消防署と合同でも行っており、避難誘導方法を身につけられるように努めている。社内防犯委員会の防災マニュアルも活用している。地域住民にも協力を依頼している。	地域の方にも参加を呼びかけ、年4回消防避難訓練を行っている。1回は消防署の出動があり消火訓練も行う。災害時には法人からの救援物資がある前提で備蓄品は限られている。AEDを設置し、職員が救命講習を修了し、救命サポートステーションに登録している。	災害はいつ起こるかわかりません。しかし、現実に各地でさまざまな災害が多発しています。その時に備えて最低限2、3日分の食料、飲料水、紙おむつや衛生用品、薬などの準備をしておくことを期待します。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員定例研修でプライバシー保護について学ぶ機会を持っている。また、接遇やマナーの研修も行っている。尊敬の念を大切にした声かけをするように心がけている。	年間研修計画に沿って、人権尊重、プライバシー保護、接遇研修は毎年行っている。日々の業務のなかで、不適切な声掛けや対応がないか、職員間で気をつけあっている。援助が必要な時一人ひとりの気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の希望を聞きだせるように声かけしている。意思表示が困難な方は、表情や日頃の生活の中から好みなど把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩、レクリエーションなど声かけし、拒否があれば、日時を変更している。食事個人ペースでゆっくりとさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服はご本人に任せている。利用者様より化粧品の購入希望があれば、そのつど購入している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事している。食事中は昔懐かしい歌謡曲をBGMとして流し、楽しい雰囲気づくりをしている。買い物や食事の盛り付け、片付けなども一緒にしている。	食事の手配は外部の業者に委託している。献立表は1か月前に作られ、当日にはメニューと作り方、食材が届けられる。盛り付けや片づけなどを職員と一緒にする方もおり、同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は基本栄養士がバランスを考え立てているが、利用者の希望や好みを聞き、変更している。おやつに果物を提供したり、ヤクルト等飲みやすい飲料を提供し水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、誘導をしている。毎月訪問歯科を実施しており、職員が歯科医師や歯科衛生士より口腔ケアの指導や助言を受ける機会を設けている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけている。その方の状態に合わせ、定期的にトイレ誘導、介助している。	排泄記録表の一人ひとりの排泄パターンで定期的に誘導したり、それとない動きや様子を見はからって、トイレでの排泄ができるよう、そっと声をかけるなど工夫している。夜間も熟睡を妨げないように気をつけて援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の牛乳で予防を心がけている。また、散歩や室内、平行棒内の歩行訓練など身体を動かす機会を持ち、自然な排便が出来るよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝、入浴の意向を伺う。希望により、日時の変更をしている。行事の時にはしょうぶ湯・ゆず湯等季節湯を楽しんで頂いている。	週2回入浴できるよう支援している。その日の一人ひとりの体調や気分などを探りながら入浴の意向を聞いている。職員との1対1の大切な時間であり、昔話やその時々のお話を楽しんでいる。冬至のゆず湯や端午の節句の菖蒲湯は季節を感じる行事となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに個々のリズムに合わせて支援をしている。体調や気分により居室で自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に整理したり、薬管理の担当者を決めている。主治医に薬の効果や相談など行ったり、配達で来訪した薬剤師に相談もしている。飲み忘れがないように、チェックも毎回行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作や歌・ゲームなど、皆で一緒の時、読書等一人になりたい時は居室にてゆっくり過ごして頂けるよう個々に合わせて対応しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は外出制限をしているが、気分転換にテラスで外の空気を吸って頂いたり敷地内の散歩をして頂いている。	正月の初詣には数人ずつに分けて、近くの神社に出かけた。3月以降は、新型コロナウイルス感染防止対策で外出行事や入居者との面会が中止となり、概ね施設内で過ごしている。気候が穏やかで天気の良い日には玄関先に出て、外気浴で気分転換を図っている。	外出行事は難しいですが、家族アンケートに希望があるように、ADLの維持のための簡単なリハビリや、できる範囲の外出を行って、入居者の体力の維持が図れるような取組を期待します。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、本人が自由に使えるお金を所持していただき、自分で欲しいものを選んで購入していただいている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、かかった時は取次ぎ、かける時は事務所の電話を使用していただいている。家族から手紙が届いたら職員と一緒に読んで頂いている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓があり自然な光が入る。清潔な空間が作れるよう掃除も心がけている。壁面には、行事や季節が感じられる飾り付けをしている。	玄関ホールには生花が活けられ、応接セットもゆったりで落ち着いて話せる空間になっている。リビングにはプラズマクラスターの空気清浄機が3台置かれている。季節のコスモスの折り紙や手づくり作品が壁に飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングには、ソファを設置し、テレビを見たり、少人数で話ができる。一人になりたい時は居室で読書をしたり、自由に過ごしていただいている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ新しいものを購入せず、自宅で使っていたものを持ちこんでいただくように話をしている。	居室には長年使っていた整理ダンスが持ち込まれ、家族との写真も飾られている。テレビ、化粧台、寝具なども使い慣れた物が多く、以前からの生活が継続され、自分らしい居室で安心して過ごせるよう工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせた福祉用具の使用や手すりを持って移動が出来るよう安全に過ごせる配慮をしている。また、トイレには大きな表示をし利用者様が安心してトイレに行けるようにしている。		